

2022（令和4）年度 日本陸上競技連盟
全国競技運営責任者会議 議事録
2月12日（日）12:00～16:10 オンライン開催

事務連絡

片岡 典子 幹事

- ・マイク・カメラはOFF、発言時にONにしてご参加下さい。
- ・画面の名前表示は、名前の後に所属を記載して下さい。
- ・チャットの書き込みは質問のみとします。チャットでの回答や議論は行わないでください。できるだけ口頭での質問をお願いします。
- ・配布した会議日程の番号に欠番があるが、そのままの番号で行います。報告書送付時に修正します。
- ・関根副委員長がアジア室内へ派遣されており、現地のタイムテーブルの関係で、海外競技会報告は競技規則修改正のあと、施設器具委員会報告前に行います。
- ・休憩のあと、日程番号12の前に、「競技会におけるユニフォームの形式について」を加えます。

競技会報告

①日本選手権混成/U20日本選手権混成（秋田：金 宏明 競技委員長）

- ・事前に長野で視察研修を行った。
- ・AD規制について、立ち入り禁止規制が十分に出来なかった。
- ・大型スクリーンが常設されておらず、レンタルで対応したが、十分でなかった。
- ・次年度は控え室、招集所等にも閲覧できるように、モニターを多数設置予定。
- ・EMDの習熟度不足の部分があった。
- ・役員数の不足。競技役員190名、高校生（補助員）120名で編成した。
- ・U20走幅跳で隣のピットの記録を勘違いした競技者がいた。「Aピットomoo」と発声するようにした。
- ・ピン差し位置について抗議が発生 → ビデオを確認し、納得してもらった。
- ・競技中に抗議・上訴が出た場合、次の競技が始まる前までに裁定結果が出せるよう、スピーディーな対応の検討をしている。

②日本選手権/U20日本選手権（大阪：大槻 明美 競技部長）

- ・大会記録がシニアで5つ、U20で3つ誕生した。
- ・競技運営面に関し、4日間開催で平日の審判員確保が大変だった。
- ・大きなトラブル、抗議は発生しなかった。

③インターハイ（徳島：緒方 俊昭 審判部長）

- ・技能向上のための研修会を2回実施（計4日間） → 陸連派遣の講師役には当日役員として編成。
- ・ハンマー投で補助ネットの脇からすり抜けテントに直撃した。人的被害はなかったが、再発防止を徹底した。
- ・スタート後の信号機暴発があった。
- ・フィールド種目（男棒高跳、男やり投、女7種走幅跳）3件試技のやり直しが発生した。
- ・走幅跳助走路のウレタン舗装が暑さのためか浮いてしまった。 → 業者に依頼し、翌日までに復旧した。
- ・C級審判員導入 → 15名を4パートで活用した。
- ・近隣からの協力を得て円滑な開催ができた。
- ・競歩競技においてレッドカード集計をタブレット通信で伝達。
- ・表彰スペースが確保できず、ロイヤルボックスで表彰実施

④全中（福島：武田 正志 審判委員長）

- ・新型コロナウイルスの対応策や中体連のガイドライン変更に伴い、特に来場者制限については難しい判断だった。
- ・競技役員は中体連の審判資格を持つ教員を中心に、高校の教員、本協会、福島大学陸上部の協力により競技を運営した。コロナ禍により、中学生の補助役員は必要最小限で、C級審判員の活用は見送った。
- ・暑さ対策として中休みを採用したが、競技役員の拘束時間が長くなった。また、実際に休めている人数は限られていたので、解消するための工夫が必要であった。

⑤国民体育大会（栃木：小針 敏明 審判部長）

- ・少年女子共通三段跳、TOP8を確定するところで、3回目の試技において3県から正式記録と痕跡の位置が明らかに違うと抗議あり。1県は再試技を認め、2県は認めなかった。認められなかった1県が新しい映像を提出した上で上訴。上訴が認め、再試技は2県が行った。再試技を行った結果、2県がTOP8に入り順位が変動。抗議前に決定していたTOP8から2都県が落ちたため、この結果に対して抗議。3回目終了後の抗議による再試技の結果、順位変動のあったことを伝えるが、2都県が上訴。上訴でも抗議で説明した通りと伝えるが、ジュリーからの直接の説明を要望。そこでジュリーが裁定を覆し2都県に4回目以降の試技を認めた。一連の抗議・上訴・裁定について、日本陸連も加わり、本来の手順に則っていないことを確認し、抗議・上訴・裁定をやり直し。2都県の上訴を棄却、2都県の4回目以降の試技を行わないことを決定し、通達。2都県は、この処遇に納得せず、主催者が説明・説得をしたが折り合いがつかなかった。翌日の朝、最終的に抗議した2都県に対し、3回目終了時の順位の入賞と得点を与えた。得点に関しては、救済した2県に説明し、救済前のチームと半分ずつということでした。
- ・成年少年男女混合4×400m予選において、コーナートップの競技役員の誘導ミスがあり、救済。別の組で5レーン第1走者がバトンを渡し終えた後、レーンから出ようと外へ横断していたが、9レーンの第2走者の進路を妨害したため5レーンが失格、9レーンを救済とした。
- ・上記により決勝は10チームとなり、2組タイムレースとなった。番組編成は予選通過8チームと救済2チームにした。決勝レースが救済等により2組タイムレースとなった場合の番組編成について、大会申し合わせ事項等での柔軟な対応をお願いしたい。

⑥U18/U16陸上競技大会（愛媛：大塚 泰史 競技委員長）

- ・グランドコンディションに恵まれなかったが新記録が多く盛り上げてくれた。
- ・提案として、フィールド種目（長さ）の試技数を、予選2回、TOP8は3回としたい。競技時間の短縮と世界で活躍する選手の育成のために。

2023年度競技規則修正提案

片岡 裕介 委員

○WAによる競技会・記録の大枠の考え方の変更1〔一般定義、TR1、TR11.1〕

- ・国際競技会 → ワールドランキングコンペティション(World Ranking Competitions)〔一般定義〕
- ・ワールドランキングコンペティションは、「CR+TR+WAが定める諸規則」に従って行われなければならない〔TR1〕
- ・ワールドランキングコンペティションに該当しない競技会であっても、「CR+TR+WA が定める諸規則」を適用して実施すべき〔TR1〕
- ・ワールドランキングコンペティションで達成された記録のみが有効〔TR11.1〕
ワールドランキングコンペティション対象競技会での記録でなければ世界記録・ワールドランキング・世界陸上等の大会の参加資格取得に必要な記録(参加標準記録)の対象とならない。
<参考>厳密にはWRk:「World Ranking」の略、ワールドランキングコンペティション:WRk対象大会
- ・本連盟規則に基づいて準備された競技場で、かつ本連盟が認めた用器具を競技者が使った時でなければ有効としない(変更なし)〔TR11.1 国内〕。仮にワールドランキングコンペティション対象外の国内競技会で世界記録が生まれたら、日本記録は対象、世界記録は対象外となる

○世界記録・日本記録の対象種目の追加〔CR32、CR37.10〕

- ・世界記録・男子・女子ともに道路競技1マイルが追加。初回認定は2023年9月1日で、計時方法は写真判定またはトランスポンダーとなる。
- ・日本記録・男子・女子ともに道路競技1マイルが追加。初回認定は2023年12月31日で、計時方法は写真判定またはトランスポンダーとなる。
- ・世界記録・日本記録ともに、通常の道路競技と異なり、トランスポンダーは1/10秒単位、写真判定は1/100秒単位であることに注意が必要〔TR19.23.3、TR19.24.5〕

※備考:現時点で「道路1マイル」の国内検定済コースは2か所のみ

写真判定で計時するケースは?…競技場発→場外→競技場着のコースの場合

○光波(ビデオ)計測装置の正常動作(計測値)の確認〔CR28〕

- ・現状では競技種目の開始前に鋼鉄製巻尺と光波計測装置の計測値の一致を確認し、科学計測装置確認書に記入(開始前チェックのみ)。チェックポイントにゴルフのティー等でのマークすることを推奨。
- ・変更後は競技種目の開始前、終了後に確認する。開始前チェックは鋼鉄製巻尺を使用して計測し、終了後チェックはマークしたティー等の距離が、開始前計測値と同じであることを確認(鋼鉄製巻尺は使用しない)。科学計測装置確認書は開始前・終了後チェック両方記入に変更。2022年度は光波計測でのトラブル事例もあったが、より重要なのは基本動作の徹

底。正しく設置(平坦で地面が安定した場所、三脚のズレ防止)する、一度セットした計測装置は動かさない(操作盤以外に触れない)着地点側の痕跡の確実なチェック、着地場所の整備、2名(複数名)での指差確認など。

○競技用靴に関する規程の再確認 [TR5. 2]

- ・規程そのものに変更はなし
- ・ルールブック本文に2024年11月1日から適用の靴底厚も記載。影響があるのは、トラック:800m 以上、障害物競走(25mm→20mm)、フィールド:三段跳(25mm→20mm)、クロスカンントリー:スパイク(25mm→20mm)。

○その他

- ・機械的補助用具規程 [TR6. 3. 4]
義足等を使用する競技者が一般競技者と一緒にWAルールで競技を行う場合には、WAの認可(承認)が必要。
- ・フィールド競技の試技時間 [TR25. 17]
表現の変更(明確化)・・・2022年3月30日付で各加盟団体・協力団体あて通知。
【疑義】高さの跳躍競技において、優勝が決まって1人になった競技者が連続試技にも該当した場合、1人の試技時間あるいは連続試技の試技時間のどちらを与えるべきか?
【結論】競技者にとって不利にならない試技時間を与えるべき(WA見解)。従って1人の試技時間を与える。
- ・「やり」に関する表記 [TR38. 5~38. 13]
内容に変更なし。表現の統一、明確化(例:握り→グリップ、穂先→先端)

海外競技会報告

関根 春幸 副委員長

カザフスタンで開催中のアジア室内に派遣中。現地よりオンライン参加

- ・いくつか資料を送ってあるので、参考にしてほしい。
- ・現在、アジア室内でスタート審判長を務めている。カザフスタンは-18度、しかし室内は半袖。
- ・海外に来て日本と違うところを感じるの、海外は競技の開始時間について厳しい。なぜ遅れたのか、遅れを取り戻せ、とTDからすぐ連絡が来る。
- ・国際競技会は英語でコミュニケーションをとるが、カザフスタンでは英語で話す人は少ない。日本でオリンピックを開いた際、WAから英語について言われたが、海外での状況は日本とあまり変わらない。
- ・その他、器具に対して丁寧に扱っている。旗をあげる際も、静かに上げて静かに下ろす。旧式の機械を使っているが、きれいな状態でとてもメンテナンスをしている。
- ・室内と屋内の違いは、200mのトラックの中に60m、そして走幅跳・棒高跳・砲丸投のピットが設置。ルールがしっかりとされた運動会が行われている、といった感じ。

施設用器具委員会報告

高木 良郎 施設用器具委員長

- ・世界記録、日本記録に1マイル追加に伴い、1マイルのコース認定の要望が出ている。
- ・写真判定装置には記録処理システムを有することが望ましい旨を明記した。
- ・技術総務の派遣、国際道路コース計測員の競技会への派遣について説明があった。
- ・グループスタートの代用縁石の置き方について、説明が行われた。
- ・秤の調整について重さをはかる前に秤の確認を行っていただきたい。重さは緯度で変わってくる。必ず10kgの重りを置いて確認してほしい。
- ・インターハイの中の報告であったが、ハンマー投げで囲いの外に出て控えテントに接触したということがあった。補助ネットの提案があり、写真を用いた説明が行われた。

WRk 申請について

鈴木 一弘 委員長

- ・2023年1月からWRk 競技会の記録でないとワールドランキング、世界大会の参加資格などの対象にならない。
- ・必ず60日前までに事前申請をしなければならない。2023年は3期に分けて申請。
- ・WA 規則に準拠しなければならない(器具、コース検定、IRWJ が3名以上など)。IRWJ の招聘については主催者負担。
- ・申請料は主催者が支払う。為替レートにより変わることもあり。
- ・主催者からの申請を都道府県陸協で取りまとめて申請する。学連の競技会は日本学連がとりまとめ。
- ・記録の申請は24時間以内に。英語表記で電子申請方式により行う。

- ・記録の信頼性に関わる場所はWA 規則に沿って行う。
- ・SIS は必ずしも必須ではない。ただし、エリア記録以上のものが出た場合は認められない。
- ・跳躍の水平種目において覗き方式の計測器の使用も認められる。ただし、エリア記録以上の記録が出た場合はスチールメジャーで計測する必要がある。
- ・1 投、1 跳ごとの計測を行う必要がある。
- ・近隣地域から客観的視点で競技会の信頼性を担保するための確認者を依頼する（主催者負担）。JTO が派遣される競技会については、JTO に依頼。
- ・2024 年以降、WA の審判制度が変わる。WA の審判資格取得者（Bronze Referee など）が WRk 対象大会で審判長を務める。
- ・WA ルール通りに実施されなかった場合、その国全体として重いペナルティを受けることになる。

<質疑応答>

（三重：和田氏）フィールド競技における計測機器のチェックに関し、当初、後の確認は意味がないと割愛されたが、競技後の確認が復活した場合、記録の信憑性が担保できなく可能性もあるが、その場合どうしたらよいか。

（片岡裕委員）計測値に誤りがあれば、やり直しが原則であるが、競技日程が過密な中では現実的ではないのも事実。競技終了後の計測は、記録の正確性の確認が目的。正確性を期すために、ラウンド毎に、トップ8の前に計測し直すなど、場面に応じて対応いただければと思う。

（長野：小林氏）フィールド競技用シューズの除外措置について、シューズの前と後ろの厚みが除外されるという理解でよいか。

（片岡裕委員）規程に基づく計測方法を確認いただきたい。

（長野：小林氏）基本的には厚みを超えてはならないという理解でよいか。

（片岡裕委員）規定通り理解いただければよい。WA とシューズメーカーが調整を取っており、そのリストに従っていただければと思われる。2024 年 11 月からの準備期間を含めて、再度周知させていただいた。

（新潟：鈴木氏）WRk について、1 点目、WA 規則通り行われたかどうかを担保するため、地域外から審判員を招かなければならないのか。2 点目として、招くに当たってはどのように調整すればよいか。

（鈴木委員長）1 点目は、公平性を担保できるように、身内以外の近県より招いていただけるとよい。2 点目として、招いた場合の費用は主催者となるため、主催県より直接近県など交渉いただければよい。

（山形：池田氏・庄司氏）1 点目は、WRk 大会の申請で高校のブロック大会のような場合、投てきシューズなどで一部適用除外となった種目を除外する形で申請になるのか。2 点目は、身内以外の方を招いた時のプログラム記載の役職名はどのようなになるのか。

（鈴木委員長）フィールド競技用のシューズの適用除外について、まずは、規則が変わることによる混乱を抑止することや、期限内にシューズ購入するなどの準備・普及を進めることが目的となっていた。WRk の導入など規則改定で状況が変わる中、適用も 2024 年 10 月 31 日を期限としたが、猶予期間としてとらえていただくとともに、WRk 競技会では当然 WA 規則に準拠したシューズを用いる必要がある。よって、競技者には、WA 規則に基づくシューズを求めざるを得ない。2 点目の近隣から競技役員を招いた場合の役職については、総務員など全体を見ていただく役職に置いていただければと思う。

競技会におけるユニフォームの形式について

事務局広報課 和賀 美咲 局員

- ・アスリートへの盗撮問題対策として、事務局が競技者に対しアンケート調査実施。
- ・自らの身を守る意識を持ったアスリートが一定数いる。
- ・リレー出場の際、チームで統一した形式のものを不本意でありながら着用している場合がある。
→デザイン、配色が同一であれば形式を選択できることはルール上問題ない。各団体で啓蒙活動を行ってほしい。
- ・退場の際、観客の近くを通る際に盗撮被害を受けることもある。導線の工夫・見直しをお願いしたい。

2022年度JTO活動報告

羽田 雄一 幹事

- ・各地へのJTO派遣に際し、色々ご協力ありがとうございます。
- ・報告の中から事例を2件JTOs研修で取り上げ、検討した。
- ・男子砲丸投の事例では、はっきりとルールに違反しているとは言えないので、無効試技とはしないという判断でも問題ない。
- ・女子三段跳の事例を踏まえ、計測機器の不具合に対処できるように、前もって準備を整えておくこと。また、特に大規模

大会では、抗議・上訴の手順をしっかりと確立、把握しておくことなどが重要である。

プロジェクトチームより

①競技カレンダー・記録PT (鍋島 太一 委員)

- ・公認協議会申請について。新システム導入後、円滑な申請のご協力に感謝いたします。
- ・来年度は運用2年目。記載URLからアップロードを2月28日までに。期間中であればエクセルのアップロードは何度でも可能。毎日13日以降に更新されHPに掲載となる。
- ・一次申請はシステムログイン後、公認大会の申請→エクセルをアップロードという流れ。
- ・3月1日以降、編集ボタンにて中止や延期などの変更を選択する（変更について基本は事前申請。コロナ等によるやむを得ない事象のみ事後申請可）。
- ・競技場の公認期限切れの表示に注意が必要だが、特例措置を受けている競技場についてはその表示あり。

②広告展示物規則PT (田中 康之 委員)

- ・道路競技（マラソン・駅伝・競歩競技）での、商標に関するチェック体制の整備と、あわせて大会要項、競技注意事項への「競技用の衣類/その他のアパレルに関する規程」の記載をお願いする。
- (1) チェック項目の整理
 - 1 ユニフォーム：違反は少なくなったが、ランパンとスパッツの重ね履きなどで違反が目立つ（ランパンとスパッツ双方に製造会社名/ロゴが掲出されてはいけない）。主催者側スポンサーがユニフォームを提供する競走大会/提供スポンサー名/ロゴの保護が必要。
 - 2 その他のアパレル：帽子、手袋、アームウォーマーでのチェック漏れが目立つ。
- (2) 関東学連競技会では、着用する可能性のあるものを写真で申告させ、事前にチェックを行っていた。これらの資料群を、今後の競技会でのチェックに活用してほしい。
- (3) 広告規程違反が見つかった時の現場での対応→「注意」と改善処置：マスキングやどちらか1枚の着用（重ね履き）、裏返しの着用等の処置。
- ・WRk申請競技会では、〔国内〕広告規程ガイドラインの適用となる。
- ・アスリートビブスの作成に関して、C7.4.8.2に誤訳があったので修正する。あわせて、競技規則TR5の〔国内〕規定を広告規程C7.4の8に、〔国内〕として移行する。これまでと実質の変更はない。

③審判ハンドブックPT (関 隆史 委員)

- ・新しいハンドブックを発刊するにあたり、コラムの充実を図り、広告規程に関する部分を新設した。
- ・例として、新コラム「写真判定を見やすくする工夫」の説明。

S級審判昇格審査報告

町田 紀子 幹事

- ・今年度の審査については、提出書類の不備が多く、本日現在まだ完了していない。
- ・次回より、書類不備に関して陸連から確認の問い合わせは行わない。
- ・審判講習会実績には、すべての講習会を記載してほしい。2023年度はこれまで通り直近6年度分を提出していただくが、2024年度からは直近年度のみの提出となる。
- ・審判手帳には必要事項を漏れなく記載いただくこと。

JT0s 育成セミナーについて

羽田 雄一 幹事

- ・2022年11月13日（日）に講義、11月20日（日）に認定試験を実施。
- ・25名が受験し7名合格。合格率28%。初の女性JT0（2名）が誕生した。
- ・2023年11月26日（日）に今回の不合格者を対象にJT0再試験を検討中。

JRWJs セミナーについて

町田 紀子 幹事

- ・2023年度に予定しているJRWJs認定試験で50%以上の合格を見据えてスキルアップを図る、ということを目的としている。

- ・2022年11月27日（日）に対面による研修会を実施した（16名参加）。
- ・今後、2023年11月26日（日）の認定試験に向けて4回のオンライン研修を予定。

2025年世界陸上について

鈴木 一弘 委員長

- ・東京2020大会の汚職事件・談合事件の影響で、東京都と陸連が競技運営組織に於けるガバナンス・コンプライアンスの整備に時間をかけており、組織委員会の設置や対外的発表はまだ行っていない。
- ・開催日程は2025年9月13日（土）～9月21日（日）の9日間。
- ・審判員や補助員の問題、国内競技会の日程調整など課題も多数あり、今後の調整となる。

<質疑応答>

（滋賀：長谷川氏）ユニフォーム「スパッツとランパンの違いの許容範囲」について、例えば、「女性のセパレートとランシャツの違い」は許容範囲かどうか。

（片岡裕委員）認識のとおり、許容範囲といえる。ユニフォームの形状が変わっても色やデザインから同じ学校（チーム）と認識できればよいと考える。また別件であるが、競技会には様々な企業からサポートいただいている。例えば電子機器など、提供していただいている機材などは丁寧に取り扱っていただきたい。

あいさつ

鈴木 一弘 委員長

本日、2023年度に向けてルールの変更をはじめ、必要と思われる内容を説明、報告させていただいた。皆様にご理解いただけたらと思う。競技運営委員会のメンバーも本務がある中、何とかわかりやすく伝えられるよう準備してきた。なかなか伝えきれない部分もあるが、今後ともリモートを含めた通信インフラを活用して、コミュニケーションを取り疑問点の解消を図っていただきたい。2023年度もよろしくお願いします。

閉会あいさつ

風間 明 専務理事

冒頭から会議を聞かせていただいた。今年度の大会開催において、皆様のご尽力がなければ大会が開催できなかった。これに対して感謝申し上げます。WAの活動について、審判の構成、高潔性、多様性について色々手立てされており、2025年世界陸上でも女性審判員の割合についてはかなり高いパーセンテージで求められてくる様子。皆様がいて、選手が活躍できる。選手・審判・観客が一体となって素晴らしいイベントとして大会を作っていく。世界陸上については色々な意味で向かい風が吹く中ではあるが、2025年は日本陸連設立100周年を迎える年でもあり、準備期間が短いですが、皆様とともに成功への道をたどっていきたいと考えている。日々の大会を積み重ねていただきたい。ありがとうございました。

事務連絡

片岡 典子 幹事

- ・会議の短冊はすべての都道府県に送付します。S級昇格者のいる陸協には委嘱状と手帳も同封します。
- ・本日の全国会議報告を指定のフォルダーに収納します。準備ができ次第ご連絡します（2月20日頃の前定）。

以上